

## 一、三沢市で大火

—青森—

一人の主婦のガスコンロの不注意から十一日午後二時三十分出火。二〇メートルを越す北西の季節風にあおられ延々六時間燃えつづけた青森県三沢市の大火、一夜明けた市内は見るも無惨に焼けただれていました。幸いにも死者はありませんでしたが四百三十四棟が焼け落ち、五千人以上の人が寒空に家を失なつたのです。

戦後、基地の町として急速に膨張した三沢は燃えやすく、簡単なバラック建築が多く、こうした建築物が火事を大きくしたといえましようが、なんといつても地方都市の消防能力の弱体、とりわけ三沢市の粗末な消防力がこうした大火にしてしまったといえましよう。

418

## 一、受験の家の記録

—千葉県富山—

受験生には頭の痛い受験シーズン。

ベビー・ブームの影響で今年の受験生はざつと七十万。そのうち大学に入れるのは三十万といふから受験地獄の殿しさが解るといふもの。

そこに目をつけたのが、千葉県富山町、海の家を利用して学生の家を開いた。

約五百人の学生が民宿し、昼夜を分たぬ猛勉強、無論正月も返上だ。

合格するには、今は体力調整期、いや最後の最後まで単語を暗記するのだとがんばる学生、あの手この手の戦略で村はいっぱい。

丸暗記がむなしいことは知りながら、それでも難関を突破するには、受験生の青空を全て受験にかけるわけだといふのであります。